

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0815 ◆◆◆

24/11/13

【 足もとのドル/円は「ドル上昇波動」か、続伸も 】

今年も残り1ヵ月半ほどになった。まだ今年の相場を総括するにはさすがに早いものの、ドル/円だけで考えると、年内の最高値(161.96円)と同安値(139.58円)はすでに達成している感も否めない。つまり、前述した高値と安値を年内に更新することは、かなり難しいのではないだろうか。

上記のような状況を踏まえつつ、今後しばらくの動静について以下でレポートしてみたい。

◎10-15ヵ月周期の短期サイクル、「今年9月にボトム」を示現

以前にもレポートしたことがあるが、今年のドル/円相場はかなりの大相場だ。

当レターで定期的に取り上げている年間変動幅、そして年間変動率はどうと前者が22.38円(139.58-161.96円)で後者は15.88%。前者はともかく、後者は過去の年間平均変動(18.37%)にもとどいておらず、詳しい方には「どこが大変動なんだ」と怒られそうだが、実は今年には上記データに表れない、「見えない大相場」となっている。

実際、年初来のドル/円相場の変動をザックリ振り返ると、年明け早々の安値「140.80円」から、7月初めの「161.96円」まで値を上げたのち9月には年間安値の「139.58円」まで急落。そして、そののち切り返すところ最近では「153-155円」とかなり激しい上下動をたどっている。20円を超える変動だけで、今年2回記録するなど1990年以前であればいざ知らず、バブル崩壊後にここまで激しい乱高下を達成した年は記憶にない。

年間を通して変動幅が38.47円、変動率が33.41%—という歴史的な記録を残した2022年とは異なる意味で、今年のドル/円相場も歴史的な一年だったと言って間違いないだろう。

さて、そんなドル/円相場だが、当レターで何度か報じている「ドルの短期サイクル」で考えた場合、先でも取り上げた9月安値「139.58円」が、ようやく「前回ボトム」として正式に認定された感がある。

詳しくは下表を見ていただきたいが、ドルは10-15ヵ月ごとにボトムをつける傾向があるなか、9月安値がそれにあたりと以前から考えられてきた。しかし、前回の昨年12月安値から9ヵ月しか経過しておらず、期間がわずかに足りないことがネックに。ただフィボナッチで考えた場合、7月高値「161.96円」を起点とした大きな下げ幅の61.8%戻し(153.40円)を、ようやく上抜け。そんな価格面も考慮したうえで、ここにきて9月安値が正式に10-15ヵ月サイクルの「短期ボトム」として認定されたことになる。

いずれにしても、この見方が仮に正しいとすれば、予想されるドル/円の次のボトムは来年の夏から秋、もう少しいえば7-10月が最有力だ。それまでのあいだドルはおおむね強含みに推移する可能性が高い。ただし、残念ながら、「ドルの短期サイクル」ではドルの上値メドを指摘することは出来ないし、高値をいつ付けるのかという予測も出来ない。けれども、ここ数年続いている「ドル強気」の相場パターンが、今後も続くとすればドルの高値は来年3-5月あたり、価格的には160円を再び超えてもまったく不思議はなさそう。

最後に、材料的な話を少ししておくと、来年の「米国ファクター」という意味では1月の「トランプ氏が大統領に正式就任」程度しか、現段階で重要事象が思い浮かばない。

しかしながら、日本はというと参議院議員の任期が来年7月28日だ。したがって、それに向け少なくとも参院選は確実に実施されるうえ、このあとの政権運営によっては衆院とあわせた衆参同日選の可能性もなくはない。今年の金融、為替市場は「高市ショック」など、日本の政治に翻弄されることが少なくなかったが、いまの段階では来年も日本の政治情勢、さらに踏み込んで指摘すれば、ある種の「政変」が相場変動のカギを握る重要ファクターになる気がしないでもない。(了)

短期波動(10-15ヵ月)		
160624	98.65	10ヵ月
170908	107.30	13ヵ月
180326	104.57	7ヵ月
190103	104.10	10ヵ月
200309	101.19	14ヵ月
210106	102.60	10ヵ月
210804	108.72	7ヵ月
230116	127.22	17ヵ月
231228	140.26	12ヵ月
240916	139.58	9ヵ月



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter